

活動報告

平成 23 年 6 月 7 日 (火) 晴れ

報告者：大田

- 8 : 00 盛岡出発 (神奈川県の方と一緒に)
- 10 : 00 陸前高田市 災害ボランティアセンター着 (神奈川県の方下車)
- 12 : 00 大槌町災害ボランティアセンター着。前人者より引き継ぎを行う。
- 13 : 00 訪問開始 (沢山地区)
- 16 : 00 ニーズ班ミーティング
- 17 : 00 全体終礼

(引き継ぎ内容)

ニーズ班の仕事内容と訪問にあたっての注意点。(特に遺族を亡くされた方への配慮。声をかけるときは「ボランティアに来ました」ではなく「お手伝いに来ました」と言った方がよい。(訪問時“ボランティア”という言葉に良い印象を持たれていない方がおられたとのこと)「大阪から来ました」と言えば好意的に接してくれる。

全社協より貸与のパソコン 1 台、携帯 3 台、レンタカー。

※ニーズ班は他の方と区別できるように「岩手県ボランティアセンター」と書かれた黄色のベストを着用することになっていた。

(活動内容)

目的：在宅生活者実態調査及びニーズ調査。大槌町災害ボランティアだよりの配布。

大阪自彊館 檜原さんと沢山地区で前回不在だった家と独居の方への 2 回目の訪問をする。

- ・訪問件数 13 件 (内、独居の方 4 件。老人世帯 1 件。他は同居) ※全体で 46 件。

沢山地区は川沿いと山側に分かれる。川沿いは半壊や全壊であるのに対し山沿いはほぼ被害がなかった。

私が訪問した家庭は特に困っていることはなく落ち着いている家ばかりだった。川沿いの家は大工さんが入り修復しているところが何軒かあった。独居老人はみな元気ですごくされていた。「近くに娘がいるので安心していきます」という方や「近くに娘はいないが、近所の知り合いが病院や買い物へ行くときは声を掛けてくれる」という方。「自転車で行きます」という方もおられた。

- ・ニーズではないが、

① 土嚢から匂いが出て撤去を依頼したいがどこに言えばいいのかわからない。

→ミーティングで報告。担当は地域整備課だが手がまわらないため、ボランティアで撤去する。

② 在宅生活者に入ってくる情報が避難所に比べ絶対的に少ない。
→ミーティングで報告。

(明日の予定)

引き続き沢山地区、前回不在だった家と独居の方への2回目の訪問。

(感じたこと)

今日かかわった家庭では半壊の家を修復している家庭も数軒あったが、特に困っていることはないとの返答であった。しかし、土嚢の異臭や在宅者への情報不足を訴える方がおられた。土嚢の異臭については明日にでも撤去されるとのこと。良かったという気持ちとニーズ班の仕事の重要性と今は無くても今後はニーズが発生することを考えると、継続した調査を実施していく必要があると感じた。また限られた資源の中で在宅者への情報提供をどうするか大きな課題である。

実際に被災地へ来ると胸にグッとくるものがあった。しかし住民の方々の笑顔、職員の方々の頑張りをみると勇気づけられます。限られた時間ですが、後方支援者として頑張っていきたいと思います。

(その他)

町社協の方が「木島さん、山下さんの時は休みに対しての配慮がなく申し訳なかったです」とのことで、今回は休養日をいただくことになる(6/14 水曜日)

以上